

森林ファンドと森林 RE Designによる百年の森林事業ver2.0

岡山県 西粟倉村 (2019年度選定)

1. 地域の特徴と課題及び目標	「百年の森林構想」を着想し、林業を主軸に地域再生への道を歩みだす。再生可能エネルギー事業やローカルベンチャー・スクール事業に取り組み、人口の社会増など一定の成果を上げつつある。課題として、ローカルベンチャーあたりの事業規模が小さく、地域での雇用拡大につながりにくいこと、森林管理協定の締結面積が対象森林の1/2程度であること、民間と協働したファイナンスの確保の手法開発があげられる。	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	森林構成の再構築を検討、実施。自然林・経済林・里山経済林に機能分化した地域山林経営を計画する。また、村有林化する資金調達手法として森林ファンドを検討する。TAKIBIプログラム・ローカルベンチャー・スクールを通じて、地域の外からヒト・コトを呼び込み、また、地域内からも起業や新規事業を促す取り組みを行う。再生可能エネルギーにも取り組み、新たに2023年に設立した「西粟倉百年の森林でんき(株)」及び各関係事業者とともに、地球環境に配慮したエネルギーを生み出す持続可能な地域を目指す。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 【ローカルベンチャー推進協議会等】 当協議会において、2023年度より新たに鹿児島県錦江町を加えた全国6自治体で広域連携を行っている。2023年7月に開催された、行政、産業界のセクターを超えて「地域の新たな産業」を協働して構築する作戦会議としてLLMin気仙沼を開催し、取組を広報。 【百年の森林事業ver2.0】 森林の一括管理を進めるとともに、森林に対し素材としての価値以外に、多様な活用による地域資本の価値最大化を図る。その一環として、観光や集客目的での森林利用を図る。 【再生可能エネルギー事業】 「脱炭素先行地域」の推進、及び地域内技術者を巻き込みエネルギーマネジメントシステムの構築を行い、電力の見える化を目指す。	6. 取組成果 【百年の森林事業】 2024年3月時点で施業面積は村有林を含め74.78ha、作業道は新たに9,912mを新設、木材搬出量は7,969m ³ /年、管理協定面積は26ha増加。 【ローカルベンチャー事業】 新たに4社が起業した。「TAKIBIプログラム」では、「生物多様性」や「空き家利活用」をテーマに都市部企業等とのワークショップを2回行い、今後のプロジェクトの創発を目指している。また、都市企業等との協働プロジェクトの一環で、地域の移動に関する地域課題において、(一財)西粟倉むらまるごと研究所で実証研究を行い、小型モビリティを地域内に6台配置、地域の移動に関する課題解決事業を実施中。 【再生可能エネルギー事業】 「脱炭素先行地域」事業の一環で太陽光発電設備の設置を図ることにより、新たに二酸化炭素を187t-CO ₂ 削減した。個別施設ごとでも2020年に竣工した栗倉第2小水力発電所の実績値が伸びている。		
5. 取組推進の工夫 ① ローカルベンチャー推進協議会：NPO法人ETIC.、全国6自治体による連携と中間支援組織の育成。 ② TAKIBIプログラム：地域の課題や願いをビジネスとして解決するため、地域の企業、関係人口による事業創出に取り組む。 ③ 一般財団法人西粟倉むらまるごと研究所：地方創生SDGsに積極的に取り組む企業等と連携し、実証事業の推進に取り組む等	7. 今後の展開策 ①百年の森林事業で進めてきた「間伐」に代わる再生林の在り方とその費用負担について、新たな仕組みを検討していく。②企業との連携において、村の取り組みや森林を活用した定期的な企業研修や異業種連携を具体的に検討し、ファイナンスや森林分野にとどまらない社会課題解決のスピードを上げていく。③森林を素材生産の場だけでなく、地域事業者全体で山林活用を行うべく、山林のデータ分析、特徴を可視化する。		
8. 他地域への展開状況 (普及効果)	2023年度には、94団体811名の行政視察を実施。別途職員が講演を行ったり、地域内企業が別途行う視察に参加するなど、SDGs未来都市事業にかかる普及啓発を推進。関係人口とつながるスマホアプリ「西粟倉アプリ村民票」では2024年3月末時点で2,059人が登録し、SDGsや観光に関する取り組み発信を行っている。		